

# Feature article

## — 野間文芸賞受賞 特集記事 —

文学研究科 笙野 頼子 先生

### 「他者とは自身だった」

2014.11.27 日本経済新聞 夕刊

「他者とは自身」  
 関病小説が受賞  
 「他者とは。ずっと考えてきたが、究極の他者に出会った」と語るのは、難病と闘う日々をつづった小説「未闘病記」(講談社)が野間文芸賞に決まった作家の笙野頼子氏(58)。昨年、突然の高熱と激痛に襲われ、膠原病の一種「混合性結合組織病」と診断された。自己免疫疾患と見られる病で、体の痛みのほか脱力感など症状はさまざま。「原因も分からず、自分が自分を攻撃する。他者とは自身だった」。このほど開かれた受賞決定の記者会見で強調したのは、重症患者への配慮。病が理解されにくく、心ない言葉をかけられても「彼らは怒る体力もなく、その嘆きは計り知れない」と訴えた。

### 受賞記事

2014.11.5 毎日新聞

#### ■野間文芸賞に笙野頼子さん

第67回野間文芸賞(野間文化財団主催)は4日、笙野(しょうの)頼子さん(58)の『未闘病記——膠原病、『混合性結合組織病』の』(講談社)に決まった。第38回野間文芸賞新人賞は松波太郎さん(32)の「LIFE」(同)、第52回野間児童文芸賞は岩瀬成子(じょうこ)さん(64)の「あたらしい子がきて」(岩崎書店)。

### 「自分の体の中に文学があったということ」

2014.11.7 毎日新聞

「未闘病記——膠原病、『混合性結合組織病』の」で第67回野間文芸賞

#### 笙野 頼子さん(58)



三重県生まれ。立命館大卒。1994年「二百回忌」で三島由紀夫賞、「タイムスリップ・コンビナート」で芥川賞。

「究極の他者に出会った。若い頃から名状し難い体調不良に苦しみ続け、昨年7月に初めて病名が付いたことを記者会見で表現した。病名は膠原病の一種「混合性結合組織病」と診断された。自己免疫疾患と見られる病で、体の痛みのほか脱力感など症状はさまざま。「原因も分からず、自分が自分を攻撃する。他者とは自身だった」。このほど開かれた受賞決定の記者会見で強調したのは、重症患者への配慮。病が理解されにくく、心ない言葉をかけられても「彼らは怒る体力もなく、その嘆きは計り知れない」と訴えた。

### 『未闘病記』— 難病と知らずに書いてきた

「群像」2014年9月号

「未闘病記」  
 難病と知らずに書いてきた

笙野 頼子

インタビュー  
 2014.6.26

「未闘病記」は、膠原病と診断された笙野頼子さんが、病と闘いながら書いた小説。病と闘う中で、自分自身と向き合い、他者との関係性を探る。この小説は、野間文芸賞を受賞し、多くの人々に読まれている。

その他、掲載記事多数。

- ・「群像」2015年1月号 P.110~114 **第67回野間文芸賞発表**
- ・「群像」2015年1月号 P.119~129 **野間文芸賞受賞記念インタビュー**

など